

報道関係 各位



全日本一般缶工業団体連合会

第3弾オリジナル浮世絵クッキー缶「赤富士」2015年4月2日発売

業界初、女性消費者による投票(ほわっと・カンカンコミュニティ活動)で決定のデザイン使用

全日本一般缶工業団体連合会(事務局:東京都台東区、会長:渋谷明彦、03-5817-7388)は、缶の知識普及、利用促進のために2013年から開始しているオリジナル浮世絵クッキー缶の第3弾「赤富士」を2015年4月2日より、当連合会ウェブサイトや一部小売店等で販売開始します。このデザインは、業界で初めての女性消費者による投票(※)で決定しました。価格は1個1,080円(税込、送料別)、サイズは縦20.5×横15.0×高さ4.7(cm)、内容量200g、問合せは電話03-5817-7388(月～金9:00～17:00)、ファックス03-3831-9350、メールkumiai@ippancan.or.jpで受け付けます。

「赤富士」は、オリジナル浮世絵クッキー缶のシリーズでは始めて、表面に細かな凹凸があり豪華な風合いに定評のある「サテン材」と呼ばれるスチール素材を使用しました。中身は前回までと同様に、株式会社泉屋東京店の協力によるギフト定番のクッキーで、今回は人気の高い「ソフトクッキー」を加えました。また、缶の中には一般缶の優れた特徴やエコロジー性、美しい金属印刷のことなどを分かりやすく説明した「しおり」を入れ、外国人向けに英語表記も備えています。第1弾「歌麿の美人画」は、2013年10月1日から販売開始し、明治座でのテスト販売も行っています。第2弾「世界遺産の富士山」は、2014年4月1日から販売しており、第1弾と同じ形状のスチール缶を使用、美しい色彩を放つ印刷技術を駆使しました。

当連合会では、業界初のオリジナル浮世絵クッキー缶を開発し、広く販売促進することで、一般缶の認知・利用促進に努めています。ギフト市場に押し寄せているコスト削減や利便性一辺倒の風潮に対して、日本の技術力を生かして一般缶を製造する業界団体として、古くて新しい付加価値を提案し、一般缶の需要創出の促進を図ってまいります。

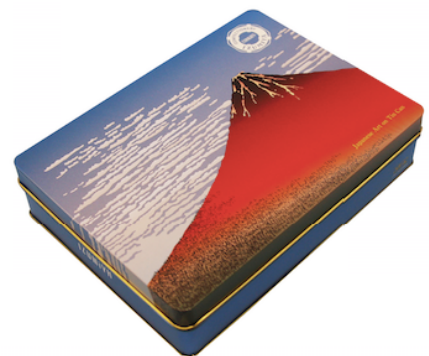
※デザインの投票について

スチール缶における「一般缶」をもっと身近に役立つものとしての知識普及と、新たな活用を模索するため、業界で初めて、一般消費者とのコミュニケーション活動を展開する「ほわっと・カンカンコミュニティ」を2014年9月17日に発足しました。第3弾のデザインは、当連合会であらかじめ設定した絵柄3点に、ほわっと・カンカンコミュニティに参加した方のほか、日頃「一般缶」を意識する機会の少ない一般女性消費者を対象にウェブサイト等を通じて呼びかけ投票してもらったものです。約一ヶ月の応募期間で応募総数は707件、うちA案(赤富士)が347票でした。「ほわっと・カンカンコミュニティ」は、『WHAT CAN CAN「ホワット・カン・キャン」=缶には何が出来る?』とかけて命名しました

(一般缶について)

一般缶とは、飲料缶や缶詰缶、18リットル缶、ドラム缶を除く、スチール(鉄)を素材とした金属容器で、海苔缶、お茶缶、お菓子缶、薬品缶、ペイント缶、生活雑貨缶などの幅広い分野で使用されています。オリジナルな形状やデザイン・金属印刷を施すことができ、その独創性で商品価値を高め、かつ、内容物の遮光性、長期保存性、省エネルギーや美的感覚と機能性を兼ね備えており、リサイクル率92.9%(2013年度)と環境にも優しいのが特徴です。

この一般缶という容器は、江戸時代から長く各種保存容器として日本人の生活に用いられてきました。しかし、贈答用が主の食品缶を中心とした需要が、平成2年を境に減少の一途をたどっています。その要因の1つに、コスト削減や利便性重視から、紙・プラスチックなど他素材容器への移行があります。この効率重視の風潮に対し、従来は商品企画などを行ってこなかった当連合会が初めての試みを行い、2013年に、業界初のオリジナルクッキー缶を企画・販売を開始しました。



オリジナル浮世絵クッキー缶第3弾デザイン
「赤富士」



第1弾デザイン
「歌麿の美人画」



第2弾デザイン
「世界遺産の富士山」

【団体概要】

全日本一般缶工業団体連合会
 会長 渋谷明彦(明和金属工業(株)社長)
 設立:1978年6月2日
 会員団体:東日本一般缶工業協同組合
 西日本一般缶工業協同組合
 中部製罐工業協同組合
 所属員会社数:75社
 住所:〒110-0016
 東京都台東区台東1-6-6第一古茂田ビル2F 205号
 TEL:03-5817-7388 FAX:03-3831-9350
 ホームページ: <http://www.ippancan.or.jp>